

ブルジョア社会の「出版の自由」

……農民は、骨の髄まで欺瞞的で反革命的なブルジョア新聞や、「黄色」新聞にだまされ、愚弄され、おどしつけられている。これらの新聞にくらべれば、メンシェヴィキとエス・エルの新聞は（ポリシェヴィキの新聞はいうにおよばず）、まったく、まったく微力である。

どうしてこうなのか？

ほかでもない、支配政党であるエス・エルとメンシェヴィキの諸党が、弱くて、不決断で、行動しないからである。これらの党が、全権力をソヴェトの手ににぎることに同意しないで、農民を無知と見すてられた状態に放置し、資本家、**資本家の新聞、資本家の煽動**に農民を好きなようにさせているからである。

メンシェヴィキとエス・エルは、大仰にもわが国の革命を大革命と呼んでおり、四方八方にむかって「革命的民主主義派」についての大げさな、きらびやかな文句を叫びたてているが、**実際には**、ロシアを、ごくありふれた、もっとも小ブルジョア的な革命の状態に放置している。この革命は、ツァーリをたおしはしたが、そのほかのことは万事もとのままにしておき、農民の政治的啓蒙のためには、人民の搾取者や抑圧者の**最後の**（そして最強の）**要塞**である農民の無知をうちやぶるためには、真剣なことはなに一つ、まったくなに一つやっていないのである。

いまや、このことに注意を促すのが適当である。民主主義会議を目前にひかえ、憲法制定議会の「指定された」（あとでまたもや延期するために）召集日まで二ヵ月をあますいまま、この事態をあらためるのはどんなにたやすいことか、農民の政治的啓蒙のためにどんなにたくさんのかんことをやれるかを、しめすことが適当である。——ただし、……ただし、それは、わがかつこづきの「革命的民主主義派」が真に革命的でありさえすれば、すなわち、革命的に行動する能力をもっていさえすれば、また、彼らが真に民主主義的でありさえすれば、すなわち、いまなお権力をその手ににぎっている少数の資本家（ケレンスキー政府）、エス・エルとメンシェヴィキがいまでもやはり——直接というよりは間接に、古い形でというよりは新しい形で——それと「協調」したがつている少数の資本家の意志と利益でなくて、人民の多数者の意志と利益を尊重しさえすればの話であるが。

資本家は（また、彼らにつづいて——無理解あるいは惰性のため——多くのエス・エルとメンシェヴィキも）、検閲が廃止されて、すべての党がなんでも好きな新聞を自由に発行している状態のことを、「自由な出版」と呼んでいる。

実際には、こういう状態は、出版の自由ではなくて、抑圧され搾取されている人民大衆を、金持、ブルジョアジーが欺く自由である。

実際、ピーテルやモスクワの諸新聞なりをとって見たまえ。そうすれば、発行部数で圧倒的な優位をたもっているのは、『レーチ』、『ビルジョフカ』、『ノーヴォエ・ヴレーミャ』、『ルースコエ・スローヴォ』その他、等々（というのは、こういう新聞は非常にたくさんあるから）のブルジョア新聞であることが、すぐにおわかりになろう。この優位はなににもとづくものであろうか？ 多数者の意志にもとづくものではけっしてない。なぜなら、選挙の結果は、両首都の多数者（しかも、圧倒的な多数者）が民主主義派、すなわち、エ

ス・エル、メンシェヴィキ、ボリシェヴィキに味方していることを、しめしているからである。これら三党の得票数は、総得票数の四分の三ないし五分の四であるが、これら諸党の発行する新聞の部数は、たしかに、ブルジョア新聞（げんざいわれわれが知っており、見ているように、それらは、コルニーロフ陰謀を直接、間接に擁護した）の総部数の四分の一に、それどころか五分の一にさえ、達しないのである。

その理由は？

その理由は、だれでもよく知っている。それは、新聞の発行は、収入の多い巨大な資本主義企業であって、金持はこれに幾百万ルーブリ、幾十億ルーブリを投じているからである。ブルジョア社会の「出版の自由」とは、金持が、系統的に、たゆみなく、毎日、幾百万の部数で、搾取され、抑圧されている人民大衆すなわち貧民をだまし、墮落させ、愚弄する自由のことである。

※……………は青山の略、……………は本文中の略

第 25 卷 P404-405 『憲法制定議会の成功をどうやって保障するか』

『ラボーチー・プーチ』第11号、1917年9月28(15)日

ポイント

資本家は、検閲が廃止されて、すべての党がなんでもすきな新聞を自由に発行している状態のことを、「自由な出版」と呼んでいる。しかし、実際には、こういう状態は、出版の自由ではなくて、抑圧され搾取されている人民大衆を、金持、ブルジョアジーが欺く自由である。

ブルジョア新聞が発行部数で圧倒的な優位を保っているその理由は、新聞の発行が、収入の多い巨大な資本主義企業であって、金持はこれに幾百万ルーブリ、幾十億ルーブリを投じているからである。

ブルジョア社会の「出版の自由」とは、金持が、系統的に、たゆみなく、毎日、幾百万の部数で、搾取され、抑圧されている人民大衆すなわち貧民をだまし、墮落させ、愚弄する自由のことである。